

NPO法人 抱樸の働き

伴走型支援



奥田知志
東八幡キリスト教会牧師
NPO法人抱樸 理事長
ホームレス支援全国ネットワーク理事長
生活困窮者自立支援全国ネットワーク 共同代表

NPO法人抱樸概要

- ・活動開始1988年 **29年目** (ホームレス支援でスタート)
- ・ホームレスからの自立 **2900人**
- ・ **自立達成率 93%** (6ヶ月の自立プログラム)
- ・ **生活継続率 92%** ・ **就労自立率 58%**
- ・生活サポート 約2000名
- ・北九州市・下関市・福岡市・中間市に拠点
- ・有給職員104名 (正職70名)
- ・ **登録ボランティア約1500名** ・ **互助会約250名** (当事者約150名)

※17部署により **包括的総合的支援を実施**
相談支援、就労支援、居住支援、地域生活支援、
介護事業、障がい福祉事業、更生保護事業、
子ども家族まるごと支援、ボランティア事業、互助事業、
生活困窮者自立支援事業、ホームレス支援事業、
生活支援施設事業等

	職員	パート	全体
該当者数	5	11	16
母数	67	37	104
割合	7.5%	30.0%	15.4%

抱樸する社会

助けてと言える社会

① 樺のまま抱く 樺⇒荒木・原木

製材され整えられたら受け取る……手遅れ

原木がそのまま抱き止められること

「何で相談もっと早く相談しなかったの」

困窮者⇒相談しない

② 抱き止められた原木には可能性がある

杖となり、家具となり、役割を果たす

「何がしたいの？」困窮者⇒自分の可能性がわからない

③ 絆は、傷を含む

原木であるゆえに刺々しくもある。抱く者は時には傷つく。

絆は、傷を含む。傷ついても抱いてくれる人がいるか？

※社会とはより多くの人々が健全に傷つくための仕組み

困窮の基本概念

ハウスとホーム

は違う

経済的困窮・ハウスレス支援・・・なにが必要か
社会的孤立・ホームレス支援・・・だれが必要か

ホームレス化する社会

※ある襲撃事件「ホームレス中学生」の存在

「家があっても帰るところがない」

「親はいても誰からも心配されていない」

■ 貧困のスパイラル

① 金の切れ目が縁の切れ目

経済的困窮が関係を脆弱にする

② 縁の切れ目が金の切れ目

孤立が人生の意義を見失わせる

何のために働くのか⇒誰のために働くのか

※伴走支援・・・物語化の支援・・・物を物語にする⁶

伴走支援とは
伴走は手段ではなく
目的

2000年5月佐賀バスジャック事件

「いじめが原因で中学三年の夏ごろより荒れ始め、まるっきり違う人格のようになり、家庭内暴力になって、何か違う方向へ行く危険性もあり不安でした。親が気づいても病院の受診がない、診療したことがないからなどと断られる。医師、児童相談所、教育センター、教育相談所など、いろいろ回りましたが、動いてくださる先生は一人もいらっしゃらない。入院して20日あまり。まじめでおりこうさんを装っているとのこと。何を考えているのか、大きな不安に包まれています。入院当日、「おぼえていろよ、たたではおかないからな」という言葉が忘れられません。心が開けない状態で退院となれば、今まで以上に暴力がひどくなるのではと不安です。心の闇がもっと広がるような気がします。このまま自分を封じ込めた闇の中で一生を終わってほしくありません。しかし、一筋なわでいかない強さももっていて、繊細で、敏感で、私たちの行動を見抜いて動いているようなところもあります。入院先に先生にお任せするしかありませんが、退院後の不安が強すぎて力がわいてこないのです。」

※一緒に動く・・・それが支援

※相談の二つの機能・・・①問題解決 ②相談そのもの

伴走型支援における家庭モデルの5つの機能

①「家庭内サービス提供機能

—包括的、横断的、持続的なサービスの提供—
住居、食事、睡眠、看護、教育、服飾…

②「記憶の蓄積—記憶に基づくサポート」

記憶…（データベース）

③「社会資源利用のための継続性のあるコーディネート

—つなぎ・もどしの連続的行使

家族のニーズに応じた社会的資源との連携をコーディネート
家庭外サービスの確保と社会資源淘汰機能

④役割付与の機能…自己有用感確保・相互性の担保

⑤何気ない日常…問題解決ではなく、生活

自尊心

「人まるごとの包括型支援—断らない支援・出向く支援」

当時のホームレス認識⇒飯無・宿無・仕事無(三無)

支援内容⇒炊出し・居宅・就労⇒しかし再野宿

しかし実態は……三つの無しに加え

障がい(4割)多重債務(6割)、家族絶縁、刑余者、孤立、
低学歴、虐待経験、貧困の世代連鎖

⇒ホームレスという人は存在しない。

奥田さん、山田さん、村木さん…すべて名前のある個人
伴走型支援⇒人を属性で見ない。「個人」として支援

個人の中に複合的問題が存在。個別固有プランが原則。

伴走支援⇒人生支援・徹底した個別支援

人まるごと支援、人に関わる人へのまるごと支援

人を属性で見ない。制度ありきは、やめる。 ひとりを大切にする！

住宅確保要配慮者(国土交通省:住宅局)

生活困窮者(厚生労働省:社会援護局)

要介護者(厚生労働省:老健局)

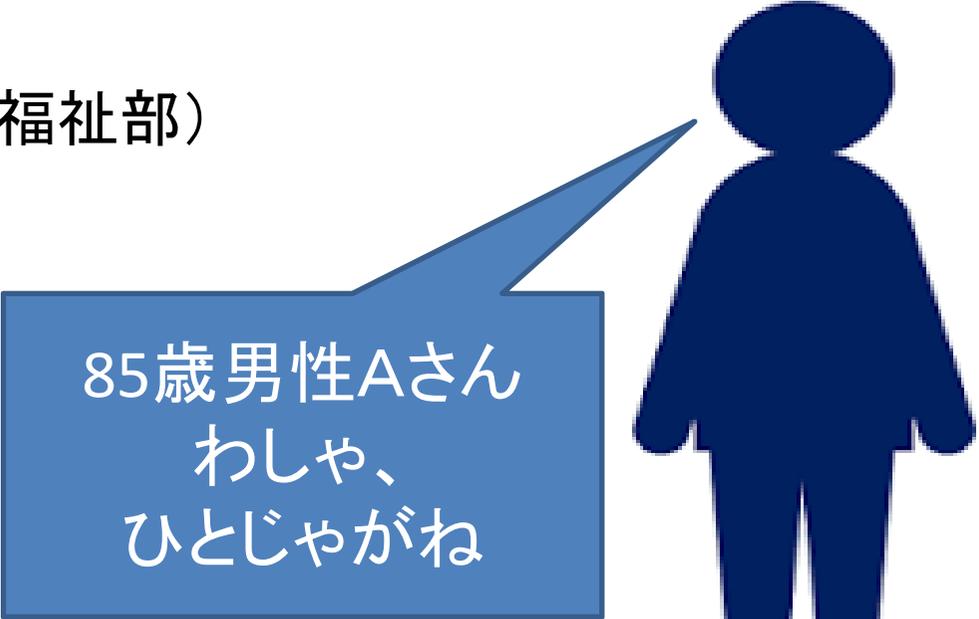
障がい者(厚生労働省:社援局:障害保健福祉部)

刑務所出所者(法務省)

医療被保険者(厚労省)

生活保護者(厚労省・福祉事務所)

地域住民・自治会・町内会メンバー



85歳男性Aさん
わしゃ、
ひとじゃがね

しかし、現実には、ひとりの人
制度からではなく、ひとりから打ち返す
ホームレス支援ではなく、名前のある個人を支援

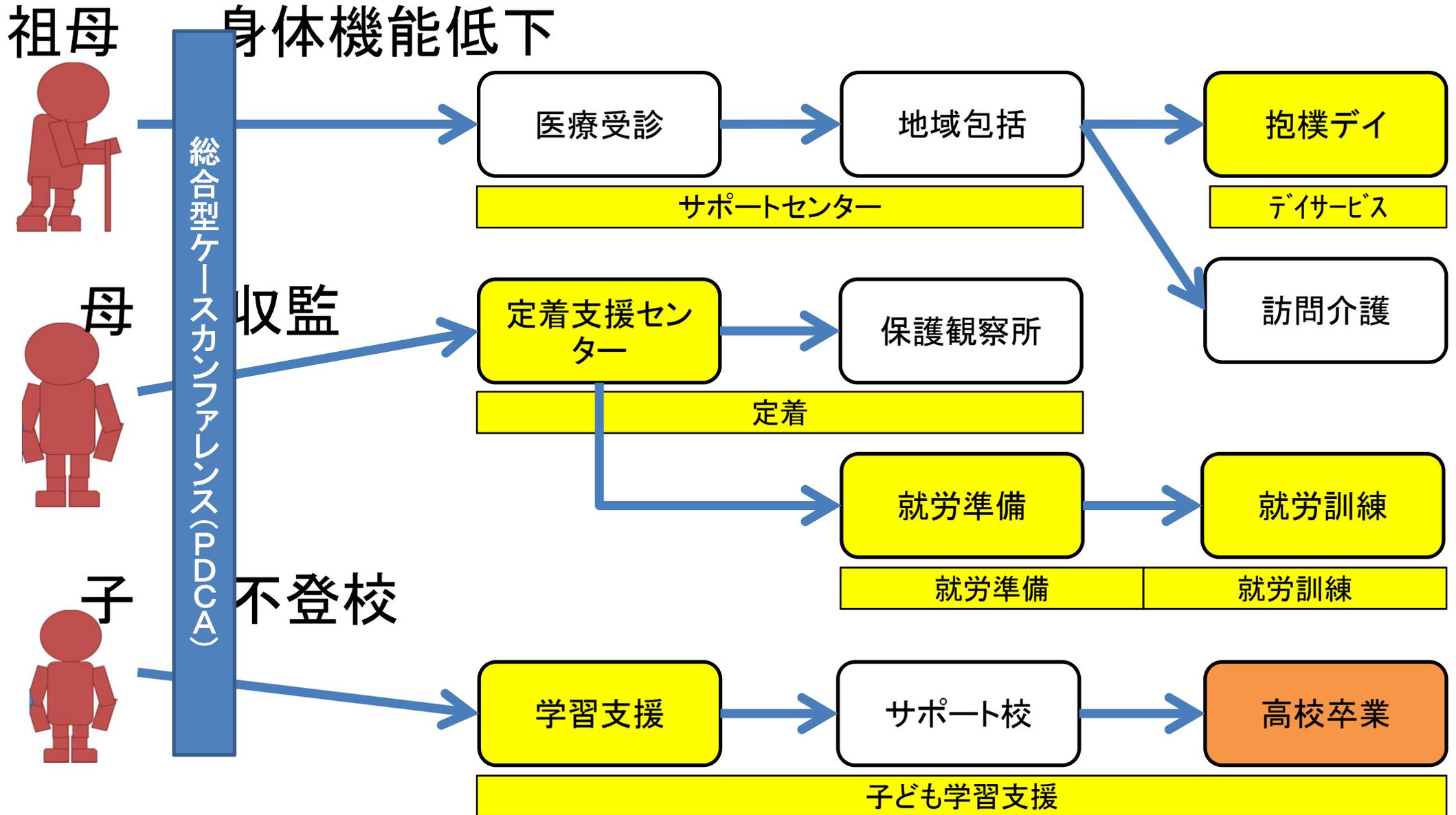
例えば・・・

NPO法人抱樸が実施する
包摂型世帯支援による子ども支援

子ども・家族MARUGOTO プロジェクト



事例① 祖母・母・子世帯



伴走支援
いのちに
意味がある

抱樸のスタンス⇒いのちに意味がある

「意味のあるいのち」と「意味の無いいのち」が存在する？

いのちに意味がある！

生きることに意味がある！

ある講演会で・・・質問「生きる意味とは何ですか？」

大切な質問だけど・・・その前に言うべきこと！

第一のことばと第二のことば

第二のものが第一のものを追い越す・・・自立支援の呪縛

寅さんの答え

第39作「男はつらいよ 寅次郎物語」

寅さんの答え・・・「生きていれば」



北九州市内の小学校にて、空き缶の見分け方を教えて、その後「見分け方大会」を開催。

講演後、子どもたちと一緒に給食をご馳走になる。↓

生笑一座公演風景

生笑⇒
「生きていれば、笑える日がある」

